

福祉を科学する

神奈川県 副知事 首藤 健治

2025年8月24日

本講演のメッセージ

1 科学とは、「支配」されるものではなく、「利用・活用」するためのもの

今の福祉をよりよくするために、科学の力をどう活用するか

2 夢（希望・期待）からはじまる

よりよい福祉をあきらめない

3 「正しさ（の方向性）」の議論が不可欠

よりよい福祉について前向きに話し合う風土の必要性

1 科学とは「利用・活用」するもの

科学に「支配」されてはいけない

歴史上、人々が支配されてきた“科学”



人々が利用・活用している“科学”

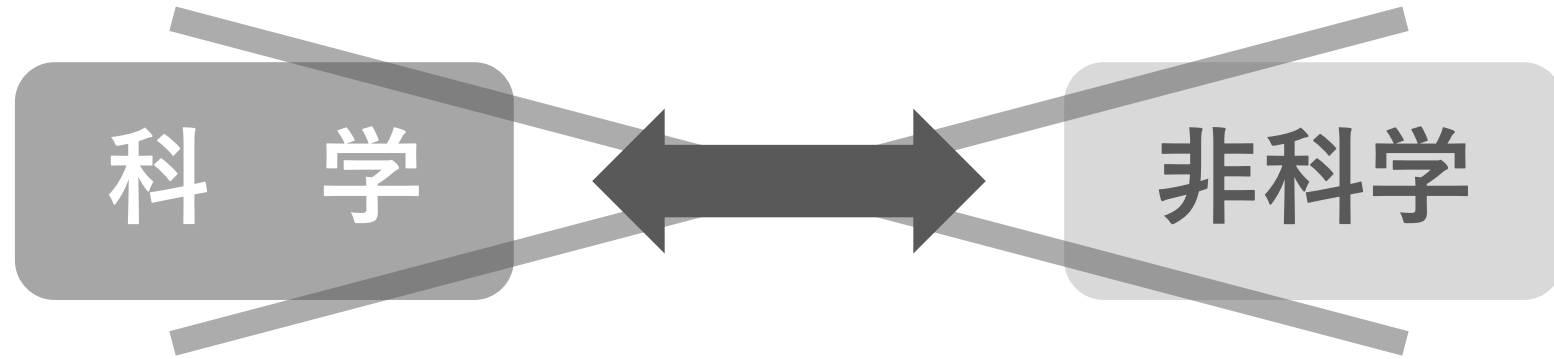


使う側の**意思**に基づく



福祉をもっとよくするために、科学を「利用・活用」していく

2 - 1 科学の反対語（対義語）は？



2-2 夢（希望・期待）からはじまる科学

現場から生まれた
アイデア

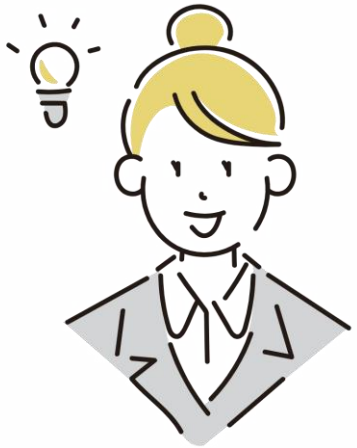
夢（希望・期待）

仮説 ⇒ 検証

に着手する

よりよい福祉へ

▶ あきらめない！



目指す姿・理想の姿を追い求める

3 - 1 医科学と福祉科学の違い

医科学モデル

	前提	(追求すべき) 正しさ
医療	正常 と 異常 の概念 (異常を正常にする) マイナスを <u>ゼロ</u> にする	寿命・治癒 (客観)
福祉	多様性 の認容 マイナスから <u>プラス</u> まで	STEP 1 心身の状態 STEP 2 社会参加 STEP 3 Well-being

福祉科学モデル

ともいき社会へ

➡ 医科学モデルの先へ

3 - 2 福祉が追求すべき正しさ

STEP 1 心身の状態

医科学モデル



STEP 2 社会参加（居場所・仲間・役割）

福祉科学モデル

STEP 3 Well-being（自己肯定感、生きがい、幸福感）

仲間との共感



プロフェッショナルモデルとしての福祉

福祉の専門家として当事者と接する



&

よき仲間モデルとしての福祉

共感のある仲間として当事者と接する



ともいき社会へ



更なる
発展

3－3 福祉の世界を見て驚いたこと

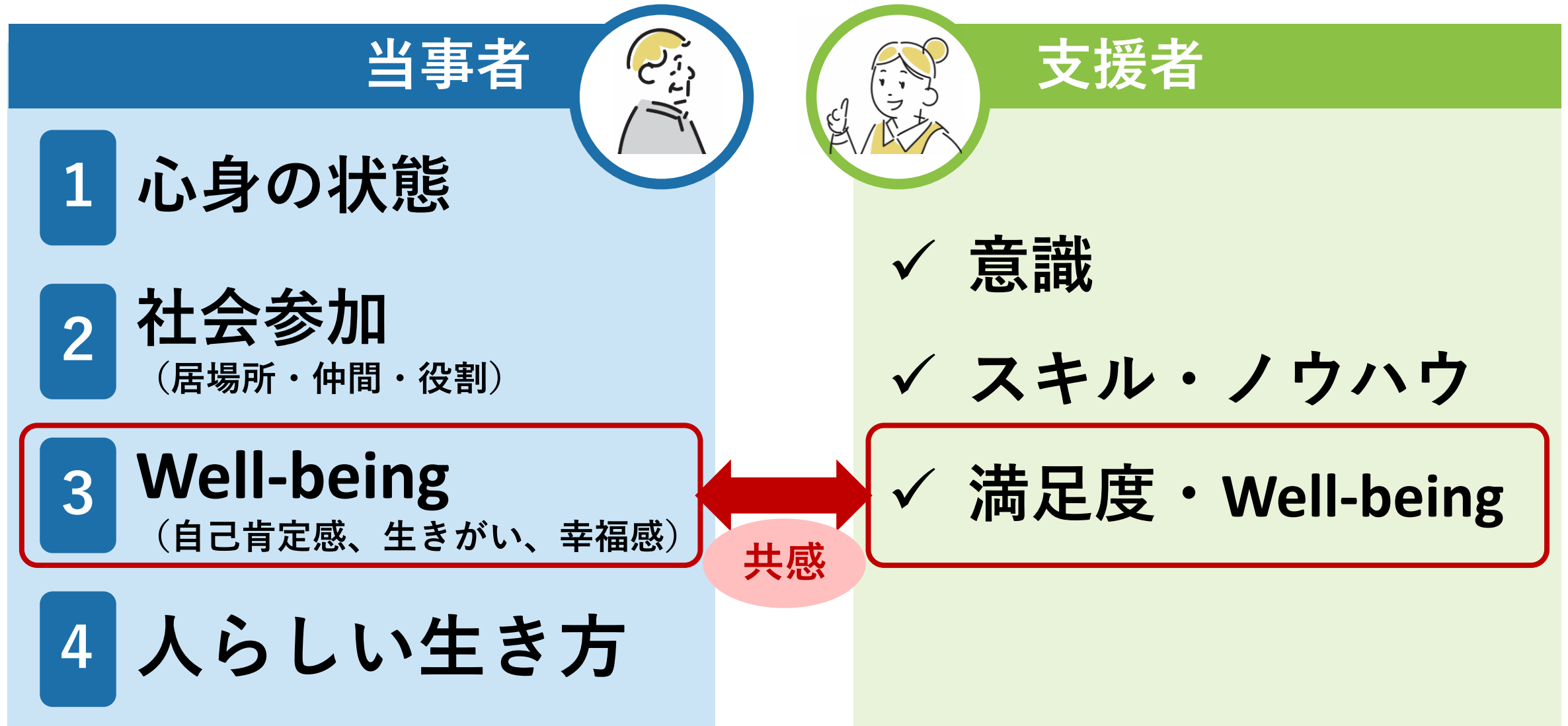
- ① みんなで正しさの方向性を議論し、方法論・結果を承認、リスペクトする文化の欠如
- ② プロフェッショナルオートノミーの欠如



プロフェッショナルオートノミー

専門職が自らの専門的知識と判断に基づいて、外部からの干渉や規制を受けることなく、自律的に行動する権利と責任のこと

3－4 正しさの目指すべき方向性



3 - 5 倫理

どちらが幸福か？どちらが鳥らしい生き方か？



飼育かごの中の鳥

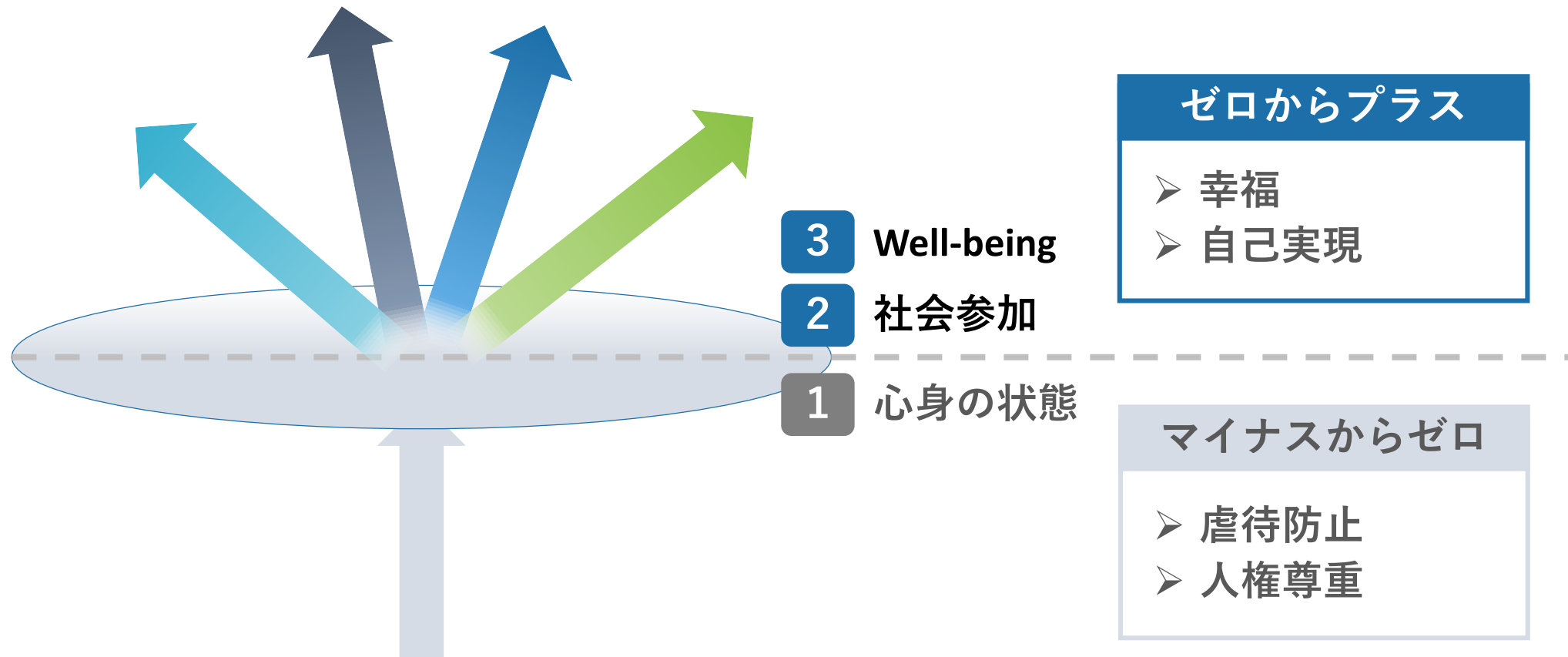


大空を飛ぶ鳥

3 - 6 「正しさ」の方向性を誰が決めるのか？

当事者研究

意思決定支援のあり方



4 - 1 当事者研究

PROFILE

NAME

熊谷 晋一郎

POSITION

東京大学先端科学技術研究センター 教授

OVERVIEW

生後間もなく脳性まひにより手足が不自由となる。小学校から高校まで普通学校へ通い、東京大学に進学。医学部卒業後、小児科医として10年間病院に勤務。

現在は、障害や病気を持った本人が、仲間の力を借りながら、症状や日常生活上の苦勞など、自らの『困りごと』について研究する「当事者研究」を行う。



4 – 2 Well-being

PROFILE

NAME

前野 隆司

POSITION

武蔵野大学ウェルビーイング学部 教授

OVERVIEW

キヤノン株式会社に勤務後、慶應義塾大学理工学部機械工学科教授、同校ウェルビーイングリサーチセンター長を経て、現職。

ウェルビーイングとは、個人と社会と地球のウェルビーイング（良い状態）であるべきだと考え、生きとし生けるものが幸せな世界を目指した教育・研究を行っている。



4 - 3 社会作業療法

PROFILE

NAME

大嶋 伸雄

POSITION

一般社団法人社会作業療法士協会 理事長

OVERVIEW



社会作業療法士協会は、どんな方でも自ら進んでWell-beingを獲得することを支援するための組織。

常に最先端の医学的基盤に、科学的な視点と、社会と個人間の相互理解を追求し、障害や差別を意識しないで生きられる人生、社会における役割と生きがいを追求する姿勢を支援し、援助する。

4 - 4 死因・虐待を科学する

PROFILE

NAME

井濱 容子

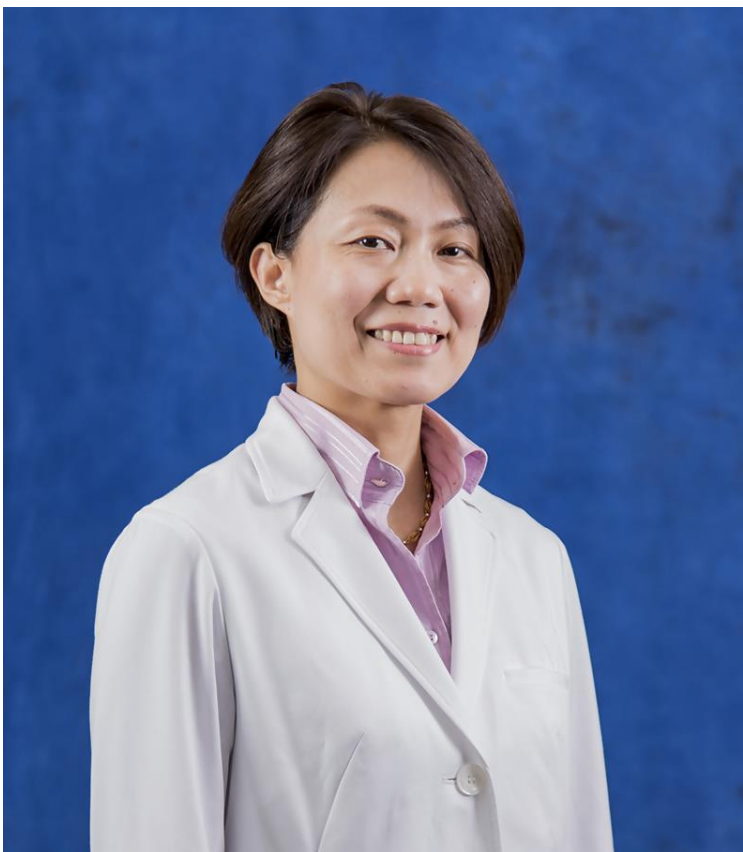
POSITION

横浜市立大学大学院医学研究科 教授

OVERVIEW

死因究明のための法医解剖を数多く行いながら、社会の安全に寄与している。

また、子どもや高齢者、DV 被害者など社会的弱者の権利を守るために尽力するとともに、人材不足の法医学者を育成するための後進教育にも努力している。



5 福祉科学研究と福祉科学の実践

社会システム化、文化的醸成のためには、
仮説の実証を、よりよい現場づくりにつなげることが重要

実践（現場）



仮説



知見・成果



知見・成果をどのように
活用するかは現場次第

研究・実証



（狭義の）
福祉科学研究

社会システム化・制度の改善

文化的醸成

（広義の）
福祉科学研究

6 福祉科学からともいき科学へ

福祉科学

ともいき科学

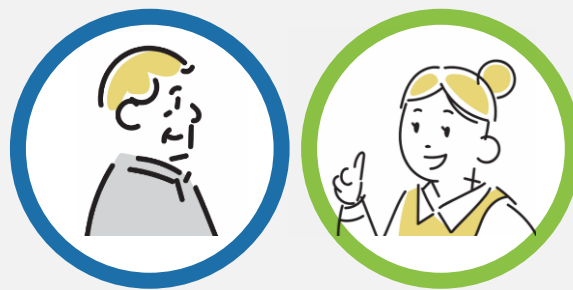
Personal Well-being

当事者



相互のWell-being

当事者と支援者



Social Well-being

コミュニティ



個人

社会

Vibrant INOCHI

